

# 山口大学七月生活報告書

三年一班 黄泓鈞

来月が八月だ。帰国の日が近づいている。この一年間はずっと日本にいたので、両親も友達も会いたい。台湾の食べ物も懐かしい。この帰りたい気持ちも帰った後も感じるのだろうか。

七月はうれしいこともあって、悲しいこともある一か月であった。友達とのお別れがたくさんあるからだ。うれしいところは最後にまた一緒に遊べて、ご飯を食べに行くこと。悲しいことはやっぱりもうお別れの時だ。この一か月で使った金は多ければ多いほど、その悲しさが重くなる。この一か月で、いつもの三倍以上の金額が消費した。後悔してないけど、そのあとの旅行に影響が出るだろう。

日本人の皆さんも同じ気持ちに違いない。いつももらえる方にいる私はずっと悪いと思っている。でも日本人から出会ってくれてありがとうと言われる時にほんと涙が一リットルも足りないくらい泣きたい。でも最後はやっぱり笑顔でお別れしたい。きっと未来はまた会えるか

ら、泣くことはないと思っている。そのために日本語を  
学んで、この一年があった。ほんと日本語を学んでよか  
った。





2018/8/1